資料 3.1；大連日本人学校　機器使用授業実践例 1

指導者　安藤　久美子

学年	小学部　2 年	教科	算数
単元名	図を　つかって　考えよう		
活用する ICT	電子黒板、DingTalk　画面共有用スライド（PowerPoint）		

本時の目標

〇加減逆の減法の問題解決を通して、加減と減法の相互関係について理解を深める。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	前時の復習をする。	・前時のスライドを示しながら、前回の学習内容を確認する。
展開	1　問題文を把握する。 2　本時のめあてを確かめる。 図をかんせいさせて、式と答えを考えよう。 3　問題場面を図に表し、式と答えを考える。 4　考えの共有をする。 5　図をともに立式の考え方をまとめる。 6　練習問題に取り組む。	・画面共有で共有用スライドを表示させ、PowerPoint の描画の機能を利用し、板書や教科書への書き込みをすることで、学習内容を視覚的に捉えやすくする。 ・共有したスライド上に児童の考えを書き込むことで、児童同士の考えの共有を図る。
終末	本時の学習内容の振り返りをする。	

成果と課題

・DingTalk は画質が良くないため、カメラで黒板を映すと児童が学習している環境によっては映像が不鮮明になってしまう。また、DingTalk 上で PowerPoint のスライドショーを起動させるとアプリがおちてしまうことがある。そこで、電子黒板で PowerPoint の編集画面に描画の機能で書き込みながら授業を行った。アプリが落ちることなく鮮明な板書を児童に共有することができた。

・教科書や板書内容を児童の使用しているデバイスに共有することで、児童が学習活動を理解することができた。

・児童の考えや回答を見取ることができないため、その場での指導ができなかった。そのため、授業後にノートの写真を提出してもらい、添削した。

通常時とくらべて、どれだけ平常時に近づいた授業実践ができたか

・授業中に児童の見取りができなく、双方向でのやり取りは難しかったものの、教科書を示しながら板書をすることができたので、その点では通常の授業よりも分かりやすく学習内容を示したり、学習活動を進めたりすることができたと感じた。